

Positive Effects of Bundling on Rival's Profit in Unionized Oligopoly*

報告者：水野倫理

概要

バンドリングによるライバル企業の行動の変化が、バンドリングを行う企業にとって都合の良いものであるなら、その企業はバンドリングを行うことを好むであろう。企業が価格競争を行っている場合、バンドリングによって価格上昇をコミットメントできるのであれば、ライバル企業もまた価格を上昇させるであろう。両企業の価格上昇は両企業に利益をもたらすため、先行研究では、価格競争の下で、バンドリングがライバル企業の利潤を上昇させると考えられてきた。一方、企業が数量競争を行っている場合、バンドリングによってもたらされるライバル企業の望ましい変化は、ライバル企業の生産量の低下である。そのため、数量競争におけるバンドリングは、ライバル企業の利潤を低下させるものとして認識されてきた。

この研究では先行研究の結果に挑戦するため、数量競争におけるバンドリングがライバル企業の利潤を上昇させる状況について分析する。分析のためのモデルには、2つの企業、2つの製品、2つの労働組合が含まれている。一方の企業は2種類の製品を生産できるが、他方の企業は1種類の製品しか生産できないとする。また、各企業が1単位の製品を生産するためには、1単位の労働者を必要とする。両方の財を生産できる企業はバンドリングを行うことができるとする。

本稿では、3種類の労働組合の形態を考える。それは、(1) **decentralization**, (2) **coordination**, (3) **centralization** である。労働組合の構造が **decentralization** である場合、各労働組合は自身の効用を最大にするような賃金を選択し、**coordination** である場合、労働組合の効用の和を最大にするような賃金を企業ごとに設定し、**centralization** である場合、労働組合の効用の和を最大にするような共通の賃金を選択する。

本稿で想定されるゲームの手順は以下の通りである。まず、2種類の財を生産する企業がバンドリングを行うかを決定する。次に、労働組合が自身の目的関数を最大にするような賃金を設定する。最後に、各企業が数量競争を行う。

分析の結果、バンドリングの誘因が保たれている状況で、バンドリングはライバル企業の利潤を増加させるだけでなく、社会厚生も上昇させる可能性が示された。先行研究では、価格競争の下でこの結果が示されていたが、本稿では数量競争の下であっても同様の結論を得ることができた。このような結果を得た主な理由は、賃金を内生的に決定させることで、バンドリングによる賃金の変化が両企業に利益をもたらすためである。

* この研究は、胡青氏（環太平洋大学）との共同研究である。